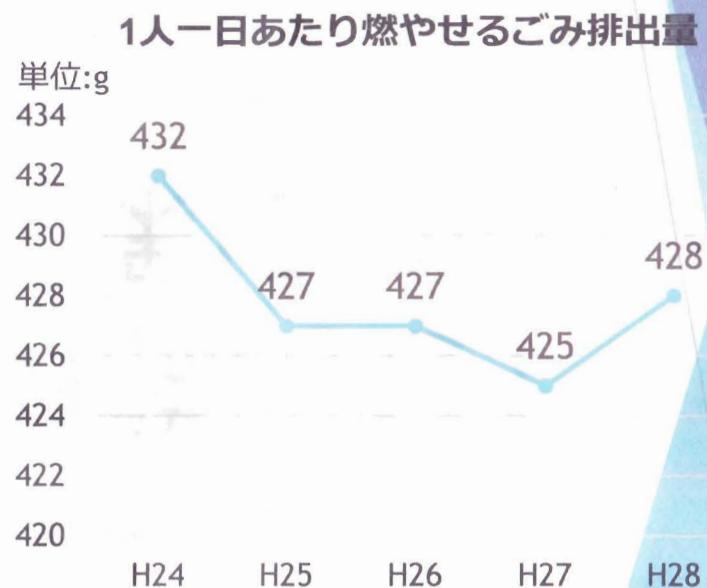


【中間答申説明会】

～ごみの減量化策について～

海老名市のごみの現状

海老名市・座間市・綾瀬市・高座清掃施設組合(一部事務組合：市内本郷)で
「一般廃棄物処理基本計画」を策定し、計画に基づきごみを処理している。



人口の増加やまちづくりの発展に伴い、海老名市におけるごみ
焼却量は増加傾向にある

減量の目的

環境負荷低減

- ・資源の消費を抑制し、環境負荷を出来るだけ少なくする循環型社会の形成

施設への負荷低減

- ・焼却量を削減することにより、稼働日数を減らし、焼却炉を延命化させる

財政的負担の削減

- ・ごみ処理経費を削減し、他の施策に回すことにより行政サービスを拡大する

地元負担への配慮

- ・ごみの排出量を減らし、車両の搬入回数が少なくなることにより地元負担が軽減される

次世代の負担低減

- ・次世代に負の遺産を残さないためにも、課題の先送りはしない

減量の必要性

持続可能な減量策の検討 →環境審議会への諮問

環境審議会

市の環境施策に関する事項について、調査審議する

家庭系ごみ
専門部会

戸別収集・有料化策を含む家庭系ごみの減量化策についての検討

環境審議会による 家庭系ごみについての中間答申内容 (平成29年9月28日)

(1) 有料化

- ・負担の公平性の確保、継続的な減量化策として有効
- ・市民の意識改革が図られ、分別意識が高まる

(2) 戸別収集

- ・排出者の明確化
- ・高齢者のごみ出し負担の軽減

(3) 分別品目の拡大

- ・燃やせるごみとして収集している剪定枝の資源化

神奈川県下有料化による減量効果

燃やせるごみ	鎌倉市	逗子市	大和市	藤沢市
導入年月日	H27年4月	H27年10月	H18年7月	H19年4月
手数料	2円/ℓ	2円/ℓ	1.6円/ℓ	2円/ℓ
導入前	24,191t	14,115t	46,946t	100,970t
導入後	20,092t	10,337t	33,940t	88,072t
増減比較	-4,099t	-3,778t	-13,006t	-12,898t
増減割合	-16.9%	-26.8%	-27.7%	-12.8%

全国の有料化実施状況

全国の**6割以上**の自治体で実施済み（1,741自治体のうち1,101自治体）

神奈川県内では4自治体（大和市・藤沢市・鎌倉市・逗子市）

全国130自治体を調査した結果・・・

9割以上の自治体でごみが減量

ごみ有料化での月額負担（実施市の実績から）

ひとり月額 約140円

4人家族で 月額 約560円

有料化後の市民意識

費用負担を削減する意識が働き

分別意識が向上する

将来を見据えたごみ処理施設整備

- 高座清掃施設組合焼却炉は老朽化に伴い新炉を建設中
- 海老名市資源化センターは、平成29年12月より改修工事着工予定

高座清掃施設組合新ごみ処理施設
(平成31年4月稼働予定)



海老名市資源化センター
(平成31年9月竣工予定)



高座清掃施設組合新炉建設までの経緯

昭和 42 年

ごみ焼却開始

昭和 59 年

現在の炉が完成（平成 4 年に炉を増築）

平成 22 年

老朽化による、新炉建設の地元協議開始

施設・塵芥車の
異臭問題

ダイオキシン類
への不安

農産物への風評被害

塵芥車の交通量

反対意見噴出
他地区での新設を！

半世紀に渡り苦痛に耐えた！
建て替えは他の場所に移転を！

平成 22 年～約 2 年間 本郷での更新について、継続して地元と協議

平成 24 年 ごみの減量、搬入車両数の減など
条件つきで、現敷地での新炉建設を地元と合意

ごみの減量

市ができること

時代に応じた
ごみ減量化策の検討と実施

市民の方が
できること

ごみへの意識改革
ごみを減らす意識
分別を徹底する意識